

交換留学報書

北海道教育大学札幌校 理数教育専攻

3年(当時) 船橋沙貴

留学先イギリス ロンドン大学アジア・アフリカ学院 (SOAS) ELAS

派遣期間: 2019年1月~3月(春ターム)

私はロンドン大学アジア・アフリカ学院 (SOAS) の ELAS コースという、英語の基礎能力とアカデミックイングリッシュを習得するコースで、三ヶ月間学びました。この三ヶ月間は、私の今までの大学生活の中で一番勉強した期間であり、また人生においてこの上なく濃密でかけがえのないものになりました。この報告書では、イギリスでの学生生活や、私がこの三ヶ月で何を学び何を得たのかなどについてご紹介します。

<留学の目的とその成果>

一つ目の目的は、多くの留学生と同じように「英語の勉強」です。最初は、なぜ IELTS の Overall 5.5 が取れたのかも不思議なくらいのリスニング能力でしたが、コミュニケーションを積極的に取ることを心がけたので日常会話程度なら話せるようになったと思います。

二つ目は、「見聞を広げ、視野を広げる」ことです。初の異国の地、初めて会う人、物、景色など、沢山の「初めて」に出会い、驚き、感動しながら、自分の価値観や考え方を豊かなものにできたと思います。

三つ目にして最大の目的は、「メンタル修行」です。自分は両耳難聴で、それがコンプレックスであり、また今ひとつ自分に自信が持てない理由でもありました。毎日目標を立てて目的意識を持ち生活し、人と関わり、逃げ道を作らなかったことで、自信ができました。あらためて自分を見つめ直すいい機会になったと思います。

留学したことで、自分の軸ができました。また教育実習でも、「イギリスの写真見たい!」「どんなもの食べてたの?」と興味津々な子どもたちに自分の経験を話すのはすごく楽しかったです。

<大学生活について>

1. 授業、学習環境

履修した講義は Literacy (Academic Essay Writing の書き方など)、Oracy (Presentation skill, Listening skill など)、Humanities (日本でいうところの教養科目。毎週 Discussion あり)、Art Lecture(毎週、講義で学んだ様々な美術作品を実際に観に行く Art Tour)でした。授業はもちろん英語のみで進められ、先生方は綺麗なクイーンズイングリッシュの方が多かったのが比較的聞き取りやすかったです。Literacy と Oracy では、今まで独学でやっていたエッセイライティングをプランの立て方から段階的に学び、最終的に 2000 字のエッセイ

を推敲ののち完成させたり、プレゼンテーションやペアワークなどで自分の意見を論理的に述べたりするなど、いわゆるアカデミックな英語を学ぶことができました。Humanitiesでは、教授の60分のLectureをメモを取りながら聞いて、翌日そのトピックについてディスカッションするというのを毎週繰り返しました。他の留学生も書いていますが、日本について無知であることを実感します。そして、このディスカッションでは人前で意見を述べるのが苦手などと言ってられません。なぜならば、一瞬の躊躇で、言うタイミングを逃すこともしばしばあるからです。

私は特にリスニングが壊滅的だったので、最初の1週間は先生の話も3割ほどしか理解できず、ディスカッションも一言も発言できずでした。正直めちゃくちゃ悔しかったし自分の力量のなさに落胆しました。2日目からはカタコトでも発言すると心に誓い、帰宅してからひたすら授業の予習、単語帳とシャドーイングをするという毎日を過ごし、そのおかげか徐々に人前で話すことへの抵抗が薄れ、先生の話も普通に理解できるようになっていきました。日本人の友人との下校時に、基本的に英語で話すようにしたのも良い練習でした。

また、授業の合間には皆勉強しています。図書館はもちろん、学内の至る所で勉強している人がいるので、自然と学習意欲が掻き立てられます。設備が綺麗かつオシャレで、勉強したくなります。自然光を生かした構造の建物で、「日が暮れる前に終わらせる！」と自分に圧をかけたりもしました。

2.友人

コースにはとにかく日本人が多めです。日本全国に友人ができます。あとはアジアやアメリカからの留学生の多いコースでした。同じアジアでも宗教や文化が違うので、とても勉強になりました。また、自国で大学を卒業したのちに留学に来ている学生が多く、その知識量には良い刺激を受けました。

ネイティブの友人とは寮やJapan Society（日本語サークルのようなもの）を通して知り合い、仲良くなることができました。日本語学科の友人とは、互いに宿題を教えあったり、課題の添削をしてもらったり、パブや日本食のお店に行ったり、休日にはマーケットに出かけたりと、日本での友人と同様に遊んで話して、自然と英語が身についた部分が多くありました。また、教育大に留学を控えた現地の学生とは、帰国後に会えるという楽しみもあります。

三ヶ月のうちにできた親友たちは、同じ日本からの留学生です。苦楽を共にした彼女たちとは一生の付き合いになるだろうなと感じています。留学なのに日本人と話すの？もっとストイックになった方がいいんじゃないの？と思う方もいると思いますし、それも間違いではないと思います。ただ、自分の留学の目的は英語力の向上が全てではなかったもので、「国籍関係なく一人でも多くの友人を作り、積極的に人と関わろう！」というモットーの元、色々な価値観や人柄に触れて、自分の視野と人間関係を広げることができ、満足しています。

3.障害への配慮

Disability Office というものがあり、ここで様々なDisabilityに対応してくれます。自分は

普段の授業でのボイスレコーダーの使用許可、リスニングテストの別室受験と Extra Time (音源を2回聞かせてもらいました)、ヘッドフォンの着用にて対応してもらいました。その他にも本当に様々な障がいや精神的なケアに対応しています。対応が組織的で、教員間での連絡も綿密で、そこは日本よりかなり先進的だと感じました。自分のきこえの状況など勿論全て英語でやりとりして説明しなければなりませんでしたが、それも一種の自信につながりました。

また、イギリスでは基本的に皆寛容(いい意味で人目を気にしなくていい)なのであまり嫌な思いはしませんでした。現地ですぐできた友人に難聴だと伝えると、

「あっそうなん? オッケー、把握しとくね」

くらいの軽い感覚。健常者同士でも日常的に「Sorry?」と聞き返すことが度々あるので、聞き返すことに日本と違いあまり抵抗を感じませんでした。

<放課後や休日の過ごし方、生活>

1. 食について

Dinwiddy House という寮に住んでいました。自炊は日々のストレス発散であり楽しみでした。学校帰りにスーパーに寄ってはフルーツや野菜やお菓子、ヨーグルトなど珍しいものをたくさん買い、しっかり食べ、食を楽しみました。イギリスはご飯が美味しくないとよく言われますが、美味しくなかったことは本当に数えるほどです。

学校の裏にはタピオカ、徒歩圏内にチャイナタウンやコスバ最高のピザ屋さん、パブではクラフトビールなど、食を存分に楽しみました。大学と寮の立地、最高だと思います。

2. 観光

なんといっても美術館・博物館が無料で入れるのがロンドン留学の魅力です。毎週の Art の授業だけでなく、休日に空いた時間に散歩がてら National Museum に出かけていました。印象画が好きの人には特にオススメです。美術館によって性格が全然違うので飽きません。

また、大都会ロンドンの中心地に位置する大学なので、放課後に思いつきでドラマのロケ地巡りができたりもします。(「ノッティングヒルの恋人」など。) また、オックスフォードストリートという渋谷や銀座のような大通りにショッピングにも徒歩で行けちゃいます。

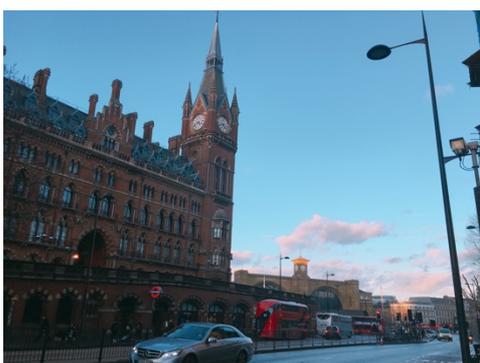
寮の徒歩圏内にはマーケットもたくさんあり、屋台で 30cm くらいある巨大なホットドッグを食べたり古着探しの旅に出たりと、すごくお気に入りでした。

学生の本分は勉強ということで、切り替えを大切にしながら出来る限り出かけました。計画的かつ積極的に行動すれば、三ヶ月でもロンドンの有名どころは制覇できます。また、ヨーロッパ諸国に比較的安い交通費で行けてしまうのもロンドンのいいところです。私はタームが終わった後、「SOAS 卒業旅行」ということで友人たちとフランスのパリに1泊4日夜行バスの旅へ行きました。

おわりに

入学前から漠然と「留学ってカッコいいよなあ」くらいに思っていた私が留学を決心したのは2年の11月末頃でした。それまではバイトと部活と遊びに時間を費やし（これもこれで大切なことだとは思いますが）、あるとき色々なものから解放され、遅ればせながら2年後期に自分の人生を見つめ直しました。その時ふと、就職や教採の試験で「大学4年間で努力したもの、またあなたの強みは何ですか？」と問う面接官の顔、そしてその問いに答えられない自分が目に浮かび、背筋が凍りました。あれもできないこれもできないと悲観し、そしてその原因を自分の難聴に転嫁して逃げてしまう自分を変え、自信をつけたい。聞き取れないから無理かもと諦めていた留学も、思い切って行けば何か変えられるんじゃないか。そんな思いで、滑り込みでIELTSを受験し、大学に申し込み、ロンドンへ行きました。時間的にも能力的にもギリギリで、精神的に辛い時期もありましたが、人間、強い気持ちを持ってやればなんとかなるものです。ありきたりですが、留学に行って後悔なんてしません。行ってしまえば楽しいです。絶対に。

将来、自分がどんな人になりたいのか。そこに留学への興味や憧れが少しでもあるのなら、ぜひ挑戦することをおすすめします。



通学路。

どこを歩いてもめちゃくちゃお洒落な街並みです。



Brick Lane Market で顔くらいあるホットドッグを。

最初の頃は防寒重視のダサめファッションでした (笑)



Borough Market にて。夢のようなケーキやパン、チーズの山でした。



「ノッティンギルヒルの恋人」のロケ地にて。暖かくなってくる3月ごろは、現地で買った服を着ていました。